

生涯学習概論レポート 3 回答

1. 日本語の文章

書き始めや改行後の字下げをインデントでしている人がある。また、Outlookからエディタに貼り付けると不要な改行が現れるものもある。これはOneDriveのWordで作成してOutlookに貼り付けた回答と思われる。教員はMacintoshを使用しており、WindowsとMacintoshの間で改行コードが異なるが、これまでの各自のPCにインストールするアプリではWinとMacの間でコピペをしても不要な改行ができることはなかった。不要な改行はクラウド版オフィスに特有の現象に見える。

上記のできごとは、つまりはユニバーサルなコンピュータやインターネットの世界ではなく、1企業が勝手に作ったクラウド版オフィスのローカルルールで文章を作成していることに無自覚なために生じている。

2. 回答

女子の回答で目立ったのは、1) 体力、2) 料理家事、3) 賃金

男子の回答で目立ったのは、1) 教員の対応、2) 更衣室、3) 痴漢とえん罪

【女子の回答】

女性＝体力がなく、男性＝体力があるのだろうか。

私の高校では毎年恒例の行事として、持久走大会が開かれた。持久走をする距離は、性別によって異なり、女性は4kmで男性が8kmと決められていた。これについて、私は、性別で持久走の距離を決めることは、男性差別にも女性差別にもあたると考える。生物学的な性別の差異はあるものの、実際には個人差が大きく、性別で体力のあるなしを決めるべきではない。女性の中には8kmに挑戦したい人はいて、男性の中には4kmで限界の人もある。そのため、高校側はそういった事実を受け入れた上で、性別で持久走の距離を決めるのではなく、生徒自身の「自分の限界に挑戦する」心を重視していった方が良く考える。

父親が料理をすることは特別なのか

私の家では父と母が家事を分担しており、父が調理師免許を持っていて、料理が得意なので料理もずっと母と一緒にしていました。そこで母が昔から言っていたことなのですが、父も料理をしていると言うと、周りから「いい旦那さんだね」と言われるのに母が普段料理していることには何も言われないことに疑問を持っていたらしいです。これを差別というのかは分かりませんが、まだ女性は家事をして当たり前で、男性が家事をすることはえらいことだという考えが少し残っているのかなと感じる話でした。

誰が料理するか

私が女性差別だと明確に感じたことはあまりないが、父が母にお弁当を作ってもらうことは少しおかしくないと感じる。父は料理が出来るのに毎回、母がお弁当を作っているところをみると。こういうことが女性の仕事は料理だ！という風に父が考えているように思う。

私が経験したことのある女性差別

私の父と母はどちらもフルタイムで働いています。母も父と同じぐらいの額を稼いでいますが、私の家では家事をするのも母の役割です。父は一切手出しをしません。なぜならば、父側の祖父も同じような役割で家庭を築いているからです。父は幼い頃から家事は女がする物と、教育を受けてきたので自分が家事をすることなど考えられないそうです。これは昔からある、女性差別の一種だと思います。

理不尽

女性は料理ができなければならないと考えている男性が私の身近には多くいる。同世代である大学生の男性は、食事に関してはカップルで支え合えばよいと考えている人が多い。しかし、結婚を考える歳の男性や家庭を持っている男性は、女性は料理ができないと価値がないと考えている人が私の身近には多い。そのため、花嫁修業と言いながら必死に苦手な料理の技術を身に付ける努力している人に出会ったことがある。これは結婚に近づくにつれて生まれる女性の差別であると思った。

また、学校の学級委員に関して、男女差別を感じたことがある。私の出身中学校では、学級委員長は男の子、副学級委員長は女の子と決まっていた。私は、この規則には意味がないと考える。大人数をまとめる力は男女平等に身に付ける必要がある。このような決まりがあるから大学への進学率は男性よりも女性の方が低いのだと考える。

アルバイトの採用条件

イベントや大会のスタッフをアルバイトとして募集している求人票で採用条件として性別制限があった。男女で体力や体形などの生物学的特性や仕事内容によっては世間の印象に差はある。そのため、性別による採用の有無は必要であるとも考えられるが、一概には言えないため性別で判断することは差別になるのではないかと感じた。

男女間の賃金の差について

ホタテのアルバイトをしていると男女で賃金が違うことがある。作業の内容が異なるため、賃金に差が出ることは理解できるが、納得できないような場面も度々ある。物を運ぶ作業の時に、重たいものを運べず、ほかの女子より作業量が少ない男子がいたが、男子の方が賃金が高いという状況があった。そもそも、最初から女子にはできないだろうというように思われていることに違和感を感じる。「差別」という強い言葉で否定するほどではないと思うが、男女の違いというのを痛感する場面である。

賃金格差

男女差別の例として、賃金格差が挙げられる。特に身近に感じたのはホタテのアルバイトでのお給料である。当たり前かのように女子より男子の方がお給料が高額となっている。たしかに作業内容が違い体力に差があるけれど、それは人それぞれである。男子の中には女子と同じくらい、または女子の方が体力がある場合もある。募集段階で男子限定とされているためそこからも疑問を感じる。

ホタテ養殖バイト内での差別

私はホタテバイトに参加しましたが、仕事内容のうちで船に乗ることができるのは男子のみです。女子は船に乗らず陸上のみの作業を行います。作業が危険で、重いものをよく持つことになるのは船に乗る方ですが、作業を1度もさせてもらえずに性別により船に乗せて貰えないのは差別だと感じました。

また、他に差別を感じるのは給料の差です。船に乗るのと乗らないのでは1.5倍から2倍程の差が生じます。

このことから性別に関係なく船に乗り作業したいと考えます。そして、女性差別を感じました。

学生時代に感じた男女差別

私は学校で男女差別なのではと思うことを体験したことがあります。まず、制服について男の子は学ランとズボン、女の子はブラザーとスカートでしたが、女子のブラザーやスカートの値段が特に高く男子の制服代と3〜4万くらい異なっていました。性別が異なるだけでかかるお金がこんなにも違うとは驚きましたし、女子であることをなぜか申し訳なく感じた記憶があります。また、学校生活のなかでもこれって男女差別なのではと思うことがいくつか挙げられます。体格や体力に差があるのに体育やスポーツイベントの際女子と男子と一緒に競技を行います。必然的に男の子が前に出て積極的に参加できますが、なかなか女の子は活躍できません。スポーツイベントならま

だいいですが、成績に関わる体育でもこのようなことがあり自分の実力を出し切れる場が無くなるということがありました。スポーツイベントとは異なりますが、学園祭の団長も全て男子でした。例年男子の割合がかなり高くその流れでやはり引っ張って行くのは男子というような流れになっているように感じます。女子が団長をやっても浮かないような流れがいつかできたらいいと思います。このような男性がやるのが当たり前、女性がやると珍しがられるというようなことは多くあると思います。社会的地位についての男女差別が起きていることが問題視されていますがこのような男女差別が起こるのも、学生時代から男性がこうするのが当たり前、女性がこうするのが当たり前というなんとなくの考えが備えられて来ているのが原因の一つなのではと思いました。

高校の施設利用や規則について

体育の際などに使用する更衣室が女子にしかなく、男子は教室で着替えを行っていた。男女で体育の終わる時間が異なることもあったため、その際の男子のプライバシーがないと感じた。

授業の際に体育館の火災報知器が誤って作動したことがあった。その際に、場所に限らず男性職員が現地確認を行うというマニュアルがあることを知り、男性差別を感じた。

女性差別、男性差別について

女性差別、男性差別について、とくにされたこともしたこともないが、女性の出産後の仕事復帰のしにくさや、女性だから、または男性だからこうあらなければならないという考え方も完全になくなったとは言えないため改善すべきだとかんがえた。

友達の性格を変えてしまった一言

女友達の一人に自分と同じく虫が好きな子がいた。彼女とは趣味に関しては非常に気が合い、他の友達も誘って近場の自然が多い場所に向かっては色々な虫を捕まえていたのを覚えている。

しかしある時からその子は一緒に虫取りに誘っても行かなくなってしまった。当時何故なのか聞いても教えてもらえなかったが、中学に上がってからの小学校の同窓会にて彼女と再会した際に向こうから詳細を教えてくれた。

当時の彼女は自他共に認める活発な子で虫が好きなのが珍しい事も自覚していたという。そんな中身内や周りの人達から「虫が好きだなんて女の子らしくない」と言われていたそう。最初は気にしていなかったものの、次第に女の子らしくない自身の趣味が癪に障るようになってしまいいっその事切り捨ててしまおうと考えた結果、虫に関することに関わらないようにしたとのことだった。彼女自身本当は遊びたくて仕方が無かったが、言われたことや年頃だったことも相まって距離を置いていたそう。

「女の子らしくない」は何気ない言葉だったのかもしれないが、この言葉によって活発さが控え目になってしまった程に影響を受けてしまった。ステレオタイプの押しつけは如何に恐ろしいのかを思い知った。

ほかに共有不可の回答が2件

【男子の回答】

小学校教員の児童への異なる対応

私が性差別を感じた瞬間は小学校での扱いの差である。小学生の感覚であるため偏見も混ざっていると思うが、当時の担任は児童が同じようなミスをした際、例えば課題の提出遅れなどをしたときに女性の方が優しめの注意で済んでいた。成績といった部分では差はなかったと思うが、対応で差があったように感じる。

男女で教員の対応が違うように感じた

中学生の頃の教員の対応についてである。廊下を走ることや廊下で騒ぐ等の行為に対して、男子に対しては集会をした際に、男子のみ全員を集会場に残留して注意する等の対応をとるが、女子に対しては黙認する教員が多く、男

子と女子で対応にかなり差があるように感じた。

小学生の時の担任教師の差別が目立っていた

私が小学6年生の時の担任が私を含めた男子生徒に差別をしているのを見たことがあった。女子生徒が掃除の時間に喋っていて掃除をしていなかった時、私を含め数人の男子生徒が注意したところ、その様子を見かけた当時の担任は「女子は喋っててもいいんだよ。」と水を差すような形で言ってきた。周りの雰囲気や言われた他の男子生徒も冗談で言っているのだろうと感じたのか言い争いまでには発展することはなかったが、当時の私は真面目に掃除に取り組んでいたこともあり、その発言に疑問を抱いた。仮にその担任が冗談で言っていたとしても真面目に掃除に取り組んでいた私にとって、その発言をするのは教師としてどうなのだろうと感じた。

教師の偏見が引き起こした性差別の経験

義務教育の時代に経験した性差別は、教師からの指導中の差別である。具体的には「男の子だから泣くな！」や「女の子だからおしとやかにしなさい！」といった理不尽な偏見による差別的指導を受けた経験がある。当時はまだ幼く判断力が欠けていたため教師の言動を疑問に思う事が無かったが、現在思い返すと明確な性差別であったと考える。

高校時代には学校の服装検査において性差別の現場を見た。高校では頭髮検査や服装検査があったが、男子の検査よりも女子の検査が厳しく男女平等ではなかった。女子の検査では前髪の長さやスカートの丈について明確な基準が存在し注意を受けるが、男子の検査では前髪がいくら伸びていようと注意されず、ズボンの丈には基準が無かった。男子と女子で検査の項目や考慮すべき点が多少異なる事については理解できるが、この差には教師の経験に基づく憶測が含まれていると考えた。検査においては前髪や丈の長さなど平等に見るべき項目に差を付けるべきではない。

私が経験してきた性差別は基本的に教師側の持つ偏見が原因で発生したと考える。そのため教師側は指導を行う際に、自身の思考の中に偏見や性差別的な偏りがないかどうかを考慮し、生徒に対して性差別を行わないように常に意識するべきである。

男子が更衣室を使えないのは男性差別ではないか

中学校や高校では体育授業のために体操着に着替えるが、女子は更衣室が使えて男子は使えないということが男性差別を受けた経験であると感じた。特に印象に残っているのは中学校での水泳の授業の着替えである。女子は更衣室を使って着替えることができたが、男子は屋外のプールサイドを使って着替えていた。男子だからといって着替えを教室の外から見られたり、屋外や教室で着替えたりすることを不快に思っている人もいるはずである。男子と女子の間で対応に差があるため、男性差別に繋がっていると感じた。

体育の着替え時間にあてがわれる教室格差

私の高校では体育の時間には体操服に着替える決まりがあった。当然その時間には男女で異なる場所があてがわれるのだが、その際女性には専用の更衣室が与えられ、男性は残って教室で着替える方式であった。また、その時間を委員会の仕事などで逃したものはみな男子トイレで着替えていた。そのほか、教室にはカーテンもなく、廊下からみられるため、それを避ける人が時間内であっても男子トイレに向かうことがあった。

当時の私はあまり気にせず教室で着替え、そのほかの人もこれを問題とした人はいなかった。しかし、これもとらえようによっては男子差別とも言えると考えられる。特に教室での着替えを避け、毎時トイレへ向かっていた人がどのような気持ちであったかを考えると、カーテン付きの空き教室を用意する等、もう少し良いやり方があったように思う。

バイトでの経験

私が経験したバイトでの差別はホタテバイトでのことだ。もちろん男性と女性では体の作りが異なるので、作業内容が違うのは重々承知しているのだが、男性が力仕事を主にしているので対して、女性は力をあまり使わない作業をしている。作業での疲労度が全く違うのに給料の金額が同じなことに不満がある。現代は男女平等な社会なのではないことかもしれないが、全く同じ作業をしているわけではないので、改善をしてほしい。

「らしさ」の強要

男性、女性共に男らしさや女らしさを求められる場面は多いように感じる。女性だから靴はヒールを履かなければならない、化粧をしなければならない、等のような外見的なものから、女性「らしい」言動などステレオタイプを押しつけられることは未だにある、と思う。男性においても男らしい立ち振る舞いを求められたり、非力さやたくましさに欠ける男性を「らしくない」と揶揄することもあると思う。このように性別に求めるイメージに当てはまらない人間に対して〇〇らしくない、とレッテル貼りをすることは差別に当たるのではないかと感じている。

差別と区別

今まで女性差別あるいは男性差別を体験したり、直接見たりした経験は無い。しかし、電車での女性専用車を男性差別では無いか、と声を上げる人がいるというのは聞いたことがある。そのため、共通認識として「差別」と「区別」の違いを明瞭にするべきではないかと思う。

「これも差別？」

私は、女性、男性差別の経験はない。しかし、よく考えたら差別の一つと言えるのではないかと考えることはよくある。例えば、女性の管理職の数や議員数を気にすること自体も女性差別につながるのではないかと考える。これを気にすることで会社が女性だから管理職に、政治家に、などと結局女性を人ではなく性別としてしか見ない社会をつくることになると感じる。

男女差別による冤罪

実際に経験した男女差別ではありませんが、意識していたことがあります。私は高校三年間を電車で通学していたため、満員電車に乗ることもしばしばありました。その時に意識することが痴漢の冤罪です。痴漢の冤罪は女性よりも男性の方が悪く見えるという人間の感覚的な差別によるものだと思っています。痴漢をされたと訴えた女性と、していないと否定した男性がいた時に、男性側を疑ってしまう気持ちは自分にもありますし、分からないこともありませんが、男性側からすると理不尽で仕方ありません。男性が気兼ねなく電車に乗れるようになってほしいと思いました。

専用車両の平等性

高校時代の電車通学時に女性専用車両しかないことに違和感を感じていた。男性が女性と同じ権利を持っていないように感じた。現在は女性専用車両のみがあり、さらに女性専用車両を増やしてほしいという声もある。自分が通学に使っていた東急東横線では10両編成8両編成ともに女性専用車両は1車両となっている。女性専用車両が生まれたきっかけは国土交通省のホームページによると「快適な利用しやすい鉄道を目指し、痴漢などの車内犯罪防止の観点から」とある。痴漢は卑劣な犯罪行為であるため許されることではない。痴漢は証明することが難しいため、基本的には被害者が痴漢被害を訴えれば被疑者は言い逃れできないようになっている。これは本当に被害を受けた人間を守ると同時に痴漢の加害者を減らす抑止力になっている。しかしそれと同時に、示談金目当てでありもしない痴漢をでっちあげて無実の人に罪を着せる行為も問題になっている。痴漢の無罪証明はとても困難であるためこの行為がまかり通っている。とはいえ本当の痴漢被害自体はもちろん存在している。痴漢加害者がいなくなることが最善であるが現実的ではないため、女性専用車両を設けることは当然のことである。しかし痴漢冤罪という問題は依然残っている。男性を守るための男性専用車両も女性と同じく設けるべきだと考える。

男性による女性への痴漢が多く目立っているが、女性による男性への痴漢被害もゼロではない。男性の性被害は女性と同じく周りに相談しにくいものである。それに加え男性被害者のつらさは理解されづらい性質がある。そういった被害者を減らすのに男性専用車両は有効だろう。ネット上では男性専用車両を設けるべきだという意見も多くみられる。実際に国土交通省には年に数件そのような意見が寄せられている。警視庁が痴漢対策として区分乗車を鉄道会社へ要請したことがある。男性専用車両を設けるかどうかは各事業者が定めることであり、いまだに検討すらされていないということは鉄道会社側がニーズがないと判断しているようだ。大阪市交通局にも同様の意見が寄せられているが、それに対し「現状では女性の保護を目的に行っている、痴漢そのものをなくす取り組みが主眼」とし、男性専用車両は検討段階にもないと回答した。この意見は男性の痴漢被害や痴漢冤罪を無視したもののように感じる。男女同権という観点からも現状女性はすべての車両に乗れることになるが、男性は女性専用車両には乗れないため、女性専用車両分乗れる車両が少ないことになる。男女同権であればすべての車両を男女どちらも乗れるようにするか女性専用車両と同数の男性専用車両を設けるほかない。女性専用車両という前例があるにもかかわらずなぜ男性専用車両は導入されないのだろうか。それはやはり男性は女性と同じ車両に乗っていて不快なわけではないという偏見が根本にある。女性は男性と一緒に車両で不快な人がいるという大多数の人からの理解があるが男性にはそれがない。逆に男性は女性と同じ車両に乗っていてうれしいものだとか、下心を持っているとまで思われている。痴漢に関しても加害者が男性で被害者は女性という認識が一般的だ。しかし実際には男性は女性と乗っていて不快に思っている人も一定数いる。それに男性も痴漢被害を受けている。男性は女性に対して常に下心を持っている女性は常に被害者という意識が多くの人間にしみついてしまっていることが女性差別に隠れた男性差別が生まれる原因である。